

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
Audi Hiroshima

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2009年版  
■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート	実施設計段階	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>				<b>0.36</b>			<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>			<b>3.0</b>	0.15		-	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>			<b>3.0</b>	0.69		-	
1 暗騒音レベル			3.0	1.00		-	
2 設備騒音対策						-	
<b>1.2 遮音</b>			-	-		-	
1 開口部遮音性能			-	-		-	
2 界壁遮音性能			-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	
<b>1.3 吸音</b>			<b>3.0</b>	0.31		-	
<b>2 温熱環境</b>			<b>2.9</b>	0.35		-	<b>2.9</b>
<b>2.1 室温制御</b>			<b>3.6</b>	0.50		-	
1 室温設定		物販: 冬期22℃ 夏期26℃ の室温設定が可能な設備容量を確保	4.0	0.45		-	
2 室温変動の抑制対策						-	
3 外皮性能		熱線反射ガラスの採用・外壁全体に発砲ウレタンの吹付	4.0	0.20		-	
4 ゾーン別制御性			3.0	0.35		-	
5 負荷・設備制御						-	
6 個別制御						-	
7 設備の空調に対する配慮						-	
8 設備の空調						-	
<b>2.2 湿度制御</b>			<b>1.0</b>	0.20		-	
<b>2.3 空調方式</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3 光・視環境</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	<b>3.0</b>
<b>3.1 昼光利用</b>			<b>3.0</b>	0.51		-	
1 昼光率			-	-		-	
2 方位別開口						-	
3 昼光利用設備			3.0	1.00		-	
<b>3.2 グレア対策</b>			-	-		-	
1 眩光防止						-	
2 昼光制御						-	
<b>3.3 照度</b>			-	-		-	
1 照度						-	
2 照度基準						-	
<b>3.4 照明制御</b>			<b>3.0</b>	0.49		-	
<b>4 空気質環境</b>			<b>3.2</b>	0.25		-	<b>3.2</b>
<b>4.1 発生源対策</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質			3.0	1.00		-	
2 化学汚染物質						-	
3 化学汚染物質						-	
<b>4.2 換気</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1 換気量			3.0	0.50		-	
2 自然換気性能			-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50		-	
4 換気設備						-	
<b>4.3 運用管理</b>			<b>4.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		ビル全体を禁煙とする。	5.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>			-	<b>0.30</b>		-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>			<b>2.6</b>	0.40		-	<b>2.6</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>1.0</b>	0.47		-	
1 広さ・収納性			-	-		-	
2 高度情報通信設備対応			-	-		-	
3 バリアフリー計画			1.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>4.6</b>	0.34		-	
1 広さ感・景観		物販平均階高: 4.45m 工場事務室: 2.7m	5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		売場面積1253.49㎡ 休憩スペース409.78㎡	4.0	0.33		-	
3 内装計画		Audi CIIに基づき建物全体・内装計画を実施	5.0	0.33		-	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.0</b>	0.19		-	
1 維持管理に配慮した設計		内装・外装共に防汚性の高い素材を使用、極力段差のない設計。	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保			2.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.1</b>	0.31		-	<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>			<b>3.0</b>	0.48		-	
1 耐震性			3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.3</b>	0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23		-	

2.4 信頼性			3.2	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	光ケーブルを採用、浸水の危険性がない場所に精密機器を設置。	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.9	0.29		-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31		-	
1	階高のゆとり	物販平均階高:4.45m 工場階高5.5m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	物販長さ比率:0.19 工場長さ比率:0.18	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり		物販:3500N/m <sup>2</sup> 工場:4000N/m <sup>2</sup>	4.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	PSを各所に設置	5.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	PSを各所に設置	5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.34		-	2.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		平和大通り沿道建築物等美観形成要綱 協議済	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.0
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.19		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.23		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		ERR=0.2	3.0	0.35		-	3.0
4 効率的運用			3.0	0.23		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.15		-	3.0
1.1	節水		3.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63		-	2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が分別可能、内装材と設備が錯綜していない。	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22		-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68		-	
1	消火剤	ハロン消火剤を使用しない。	4.0	0.33		-	
2	断熱材		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
2.1	大気汚染防止	燃焼機器なし	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	駐車スペースの確保	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2	風害、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たす。	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	